2021/7/5
（うと Q 世話し＋オマケの英語教室 Why does it happen? 前編）

叩かれることを覚悟の上で、一筆啓上仕ります。
オマケの英語教室を書いていましたら、幾多のご指摘を頂戴いたしました。
まぁ、大半がお叱りと訂正要求なのですが。
しかし、止めようという気にはなりません。
失うものより得るものの方が多いと思うからです。
こういったご指摘やお叱り、訂正要求が受けられるのも、自分が言葉を発したからです。発しなければお叱りを受けることや訂正要求を受けて「つらい思い」をすることもありませんでしょうが、同時にそれはご指摘を受ける「チャンスを失うこと」にもなるからです。
以前或る SNS で「早朝レストランに出社すると、バックヤードでカラスが錘代わりに置いておいたビール瓶のダースケースを押しどけてあさり、そこいら中がゴミだらけになっていたので「カラスは怖い」」という投稿をしました。
その折、名前からして英語が母国語ではない見知らぬ外国人女性の方から
「Yes, crows is very fear」（そうよ。カラスは怖いわ）
と有り難い事に思いがけぬメッセージを戴いたのですが、その同じ板に横から日本の方が「crows で複数形なら are、is が正しいなら crow じゃないとおかしい。あなたは間違っています」とその外国人女性宛てに英語で「誠に正しい指導」をなさったのです。
余りに正しくて腹も立つし、女の人が可哀想だったので
「I noticed it at the time. But just at once I understood what she wants to say, then no said concerning to it」（直ぐに気づいたけれど、彼女の言いたいことはわかったので、そのことに関してはなにもいいませんでした）
と横から書き込みを入れました。
こういった心の中でひそかに自分を「相当レベルのインテリだ」と思っておられる方々は、英語をコミュニケーションの道具としてではなく、自分の有能さを見せつける、或いは相手

コメントの追加 [宇都宮1]:

を威圧する道具として無意識の内にも位置けて使っていないでしょうか。蛇足ですが、こういう方々は敢えて難しい単語を選んで使ったりもします。自分の高位を示し、相手をひるませる為なのかもしれません。
だとすればそういう観点を少しでも抱いている方々は聞く側に立っている人たちも含めて、英語と訊いた途端に気分が重たくなるのも当然の事でしょう。ちっとも楽しくなんかなく、疲れて当たり前です。それこそ外交交渉の時のように。
外国人は案外おおらかです。大抵の事は no problem（大丈夫よ）
文法的に間違った言い方をこちらがしても、意味が分かれば細かな指摘をしたりすることなんかしません。指摘するのは職業として英語を教えている外人講師で、しかもその英語教室での時間内にするくらいのものです。それは職業なので仕方がないでしょう。
それではいったい誰がチェックを入れているのか？と言えば間違い指摘は決まって日本の人たちなのです。
(中編へ続く)